

黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針（案）

■コンセプト

里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもたちが未知の体験に胸を弾ませ、大人は里山の自然を懐古し、楽しめるビオトープ型の自然公園。

■整備目的

- ① 失われつつある里山の自然環境を、次世代への環境遺産として継承するために、公園を整備し保全する。
- ② 希少となった里山の自然環境に、子どもたちが容易に触れ合い経験できる場を提供する。

■整備方針

【全体】

里山の中に開かれた広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園。

【方法】

- ・ 公園拡張予定地のデザイン設計・施行には、南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加予定。子どもに近い感性で子どもが必要と考える自然公園の提案をいただく。
- ・ 市民が関わる公園づくりのために、子どもによる植樹等の実施を計画に含める。
- ・ 生徒の意見を取り入れながら設計を行う。

【構成】

- ・ 自生する生物が集まり繁殖しやすい空間を確保する。
- ・ 最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察できるようにする。
- ・ 子どもや親子が昆虫、植物の採取を自由にできるようにする。
- ・ 環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用を想定する。

【動線】

公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】

里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。

【その後の活用】

学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用してもらおう。